

Ⅲ. 南アフリカ共和国における調査

第1 南アフリカ共和国の概況

(基本データ)

面積：122 万平方キロメートル（日本の約 3.2 倍）

人口：5,495 万人（2015 年：世銀）

首都：プレトリア

民族：黒人（79%）、白人（9.6%）、カラード（混血）（8.9%）、アジア系（2.5%）

言語：英語、アフリカーンス語、バンツール諸語（ズールー語、ソト語ほか）の合計
11 が公用語

宗教：キリスト教（人口の約 80%）、ヒンズー教、イスラム教等

政体：共和制

議会：二院制（全国州評議会（上院に相当）90 名、国民議会（下院に相当）400 名）

GDP：3,128 億ドル（2015 年、世銀）

一人当たり GDP：6,050 ドル（2015 年、世銀）

経済成長率：1.5%（2014 年、世銀）

インフレ率：4.7%（2013 年、年平均 CPI）（2015 年：南ア統計局）

在留邦人数：1,471 人（2015 年 10 月）

1. 内政

1940 年代後半に法制化され、以来継続されたアパルトヘイト政策は、国際社会からの非難や制裁、反アパルトヘイト運動の激化を受け、デ・クラーク大統領により、撤廃に向けての改革が進展した。1991 年には関連法が全廃され、1994 年 4 月には、南ア史上初めて黒人を含む全人種が参加した制憲議会選挙及び州議会選挙が実施されて完全撤廃された。議会選挙では、アパルトヘイト撤廃を推進したアフリカ民族会議（ANC）が 62% の得票率で勝利し、マンデラ議長が大統領に選出された。1996 年には新憲法が議会で採択された（1997 年 2 月に発効）。

2. 外交

アパルトヘイト撤廃以降、OAU（アフリカ統一機構）加盟、非同盟諸国会議加盟、英連邦再加盟、SADC（南部アフリカ開発共同体）加盟を果たし、1994 年 6 月には 20 年振りに国連総会の議席を回復した。

アフリカ諸国で唯一の G20 メンバー国であり、新興経済国の一員として、近年、国連改革、核軍縮・不拡散、気候変動等のグローバル・イシューに関して発言力を高めている。

ズマ政権は、AU（アフリカ連合）強化や SADC による政治・経済統合の重視等、

アフリカ諸国との開発パートナーシップの促進に重点を置くほか、2011年からはBRICS首脳会合に参加し、新興国外交を推進している。

3. 経済

南アフリカは、サブサハラ・アフリカの全GDPの20.2%（2014年：世銀）を占め、アフリカ経済を牽引している。最大の貿易相手国は中国であり、EU、米国、日本との貿易関係も活発であるが、最近では、そのほかBRICS諸国、南部アフリカ諸国との経済関係強化も重視している。

南アフリカは、1996年に金融政策・貿易の自由化、財政の健全化、諸規制の撤廃を掲げたマクロ経済戦略「成長・雇用・再分配（GEAR）」を策定し、以後、自由化による経済成長路線を歩んできた。近年では、2030年までの国家計画である国家開発計画（NDP）の早急な実施が望まれている。

2014年に深刻化した電力供給不足は、2015年5月にESKOM（国営電力公社）首脳陣の入れ替えがあり、それ以降は比較的落ち着きを見せている。他方、この落ち着きはピーク対応電源フル稼働や既存石炭火力発電所のメンテナンススケジュール調整等による一時的な対応に過ぎず、政府は、石炭やガスといったベースロード電源のIPP（独立系発電事業者）を開始するとともに、新規原子力発電所建設計画の調達に向けた閣議決定を行う等、電源開発に努めている。

4. 日・南ア関係

（1）政治関係

日本は、1910年に日本の名誉領事をケープタウンに置いた後、1918年に在ケープタウン領事館（アフリカ大陸初の日本の公館）、1937年には、プレトリアに公使館を設置。しかし、1942年、第二次世界大戦により、外交関係が断絶された。戦後、領事関係のみ再開された。その後、南アの民主化の進展を踏まえ、1991年6月、人的交流規制の緩和、同10月、経済規制措置の緩和を実施。1992年1月、外交関係を再開し、同年2月に、在南アフリカ大使館を開設。さらに、1994年には残存経済規制を撤廃した。

（2）経済関係

日本の対南ア貿易

（1）貿易額（2014年：貿易統計）

輸出 3,416億円

輸入 6,661億円

（2）主要品目

輸出 輸送機械（自動車及び部品等）

輸入 プラチナ機械類、自動車部品等

（出所）外務省資料より作成

第2 我が国のODA実績

1. 概要

南アフリカに対する経済協力は、アパルトヘイト政策撤廃後の1990年初頭の研修員受入れ及び草の根・人間の安全保障無償資金協力の導入に始まる。1994年の民主政権誕生後、黒人貧困層生活改善の基本方針「復興開発計画」と経済政策自由化の基本方針「成長、雇用、再分配成長」（1996年）の策定を受け、本格的な経済協力を開始。

【参考】我が国の対南アフリカODA実績

(単位：億円)

年度	円借款	無償資金協力	技術協力
2010	—	1.25	6.41
2011	—	0.90	9.96
2012	—	1.14	8.25
2013	—	1.24	7.17
2014	—	1.47	6.52
累計	201.45	136.70	122.53

(注) 金額は、円借款及び無償資金協力は交換公文ベース、技術協力は予算年度の経費実績ベースによる。

2. 対南アフリカ経済協力の意義

南アフリカは、インフラ投資の拡充や人材育成の強化、基礎的な社会サービスの強化等を実施する方針であり、これらの分野での支援は、同国の開発や社会的安定にとって重要であるだけでなく、同国で活動する日系企業のビジネス環境整備にもつながり、二国間関係強化を通じ、我が国の鉱物資源の安定的確保にも資する。

3. 対南アフリカ経済協力の重点分野

- (1) 人材基盤の強化とインフラ開発促進支援：中長期の安定的成長を支える人材育成のため、技術教育・職業訓練の改善を図る。また、持続的な経済成長に向けたインフラ整備を加速させる。
- (2) 社会的弱者の経済・社会参加支援：経済格差拡大による基本的な社会サービスの不平等に対し、社会保障制度改善及びコミュニティ開発人材の育成等を通じて、社会的弱者の経済・社会参加を促進。
- (3) 南部アフリカ地域の開発促進：南部アフリカ経済の中心である同国と連携し、同地域の開発を促進。

【参考】主要ドナーの対南アフリカ経済協力実績（2013年）

(支出総額ベース、単位：百万ドル)

1位 米国 479.35	2位 フランス 377.25	3位 英国 100.37	4位 ドイツ 79.57	5位 ノルウェー 26.95
-----------------	-------------------	-----------------	-----------------	-------------------

(出典) OECD/DAC

(出所) 外務省資料等より作成

第3 調査の概要

1. ケープタウン市子ども病院医療機材整備計画（草の根無償）

（事業の概要）

草の根・人間の安全保障無償資金協力（以下「草の根無償」という。）は、人間の安全保障の理念を踏まえ、開発途上国における経済社会開発を目的とし、草の根レベルの住民に直接裨益する、比較的小規模な事業のために必要な資金を供与するものであり、2015年8月現在、141か国及び1地域（パレスチナ）を対象としている。

ケープタウン市子ども病院は、1956年に公立病院として設立された。南部アフリカ地域唯一の小児専門病院であり、南アフリカだけでなく近隣諸国からも患者を受け入れている。ベッド数は約300床、職員数は約1,200名であり、近年の患者数は年間25万人以上となっている。同病院は、2013年に病棟拡張を実施したが、それに伴い医療機材が不足していた。そのため、2014年度の草の根無償のスキームを利用して、次の医療機材を高度治療室等に供与したものであり、総額は約750万円となっている。

（供与した医療機材）

保育器（インキュベーター）2台、アプノモニター（呼吸流れや体内酸素濃度を測定する検査装置）3台、マルチ・パラメーター・モニター（血圧・心電波・動脈酸素飽和度等を測定する検査装置）5台、非観血式血圧測定器3台、血液内酸素飽和度測定装置9台、付添人用折りたたみ椅子30脚

（視察の概要）

派遣団は、1月14日午前にケープタウン郊外にあるケープタウン市子ども病院を訪問した。同病院側を代表してヌマノグル（Numanoglu）小児外科部長が挨拶し、日本政府からの支援に対して感謝の意を表するとともに、同病院における機材の意義等について簡単に説明を行った。なお、同病院では、日本から小児外科を専門とする清水徹医師が研修医として活動しており、同医師も視察に同行した。

視察では、病院内の各病棟への案内を受けた。とりわけ、日本から支援を受けた機材が多く配置された高度治療室では、各機材の日頃の利用状況等について丁寧な説明があり、日常的に使用されているため欠くことのできない重要な機材であるとの話であった。各病棟では、治療を受ける子どもに母親が付き添っており、派遣団から声をかけられた母親の一人は、同病院で高度な医療を受けることができ大変助かっている旨述べた。なお、派遣団から入院している子どもたちに対して、日本より持参したクレヨンが贈られた。

視察後の挨拶で、佐藤団長は、日本政府から支援を受けた医療機材が不可欠の存在として利用されている状況や入院している子どもの親が医療スタッフを信頼している様子がよく分かったと述べた。また、アフリカは子どもの数が多く、医師としては様々な経験ができるため、日本からの研修医の数がもっと増えても良いとの感想を述べた。



小児外科部長から説明を受ける派遣団



日本からの支援（日の丸）を示す病院機材

2. 南アフリカ議会

（概要）

南アフリカは、立法、行政、司法の中心地がそれぞれ別の都市にあり、立法府はケープタウン、行政府はプレトリア、司法府はブルームフォンテンに存在する。

南アフリカの議会は二院制であり、上院である全国州評議会と下院である国民議会から成る。国民議会は全国選挙区（定数 200 名）と州選挙区（定数 200 名）から拘束名簿式比例代表制により議員が選出されている。上下院いずれも与党であるアフリカ民族会議（ANC）が過半数を占めている。

（視察の概要）

派遣団は、1月14日午前、ケープタウン市街地にある南アフリカ議会を訪問した。今回の訪問は土曜日で議会の休日であり、また、訪問した時期は議会の開会時期ではなかったため、当初は訪問の予定がなかったが、南アフリカ側の特別な配慮で視察が可能となった。議会側は、スタンダー（Stander）議会儀典長から挨拶があり、儀典長の案内で議会周辺地から、国民議会（下院）、全国州評議会（上院）の順で視察を行った。また、かつての議会であった人種別三院制議会について説明を受けた。



国民議会（下院）で説明を受ける派遣団



全国州評議会（上院）で説明を受ける派遣団

第4 意見交換の概要

1. ニコイ国連世界食糧計画南部アフリカ地域事務所長との意見交換

派遣団は、1月12日夕方、在南アフリカ日本大使公邸での夕食会においてクリス・ニコイ（Nikoi）国連世界食糧計画（WFP）南部アフリカ地域事務所長と意見交換を行った。その概要は次のとおりである。

<佐藤団長の発言概要>

- ・今般、WFPを通じたサブサハラ・アフリカ地域全体への食糧支援のため、約4,765万ドルを補正予算に計上しており、国会の承認を経て拠出される。

<ニコイ所長の発言概要>

- ・日本の支援に感謝する。目に見える支援に向けて努力する。
- ・収穫期（4月から6月）を前に食糧事情が最も悪化するため、現在活動を拡大中。1,300万人以上への食糧供給を実施している。
- ・最大の課題は、4割以上に上る慢性的な栄養不足への対応及び1,000万人を超える人々への食料配給のロジスティックスであり、さらに、政府及び当局の食料担当者のキャパシティビルディング、灌漑など気候変動に強靱な食糧供給システムの構築、安定した電力供給が重要となる。

2. ジョナス財務副大臣との意見交換

派遣団は、1月13日午前、ジョナス（Jonas）財務副大臣を訪問し、意見交換を行った。その概要は以下のとおりである。なお、先方は、トーリ国際開発総局長らが同席した。

<佐藤団長の発言概要>

- ・TICADVIでは、日南ア首脳会談で安倍総理から日本企業の高い技術力を活かしたインフラ、エネルギー、人材育成での協力を表明した。
- ・対南アODAでは、技術協力及び草の根無償資金協力を中心とし、医療や教育分野での貢献、電力の分野での円借款を検討中であり、これには債務保証の付与が必要となる。

<ジョナス財務副大臣の発言概要>

- ・大臣が会う方向で調整したが財政演説の準備、予算編成、ダボス会議出席のために都合がつかなかった。
- ・日本との関係は重視しており、二国間関係は強化の方向を歓迎したい。

<トーリ総局長の発言概要>

- ・円借款については、過去4年以上にわたり大使館及びJICAと議論しているが、2つの問題がある。第一の問題が債務保証である。財務省は財政規律を維持しつつ、メリハリの利いた形で国営企業に債務保証を割り当てており、融資機関には直接国

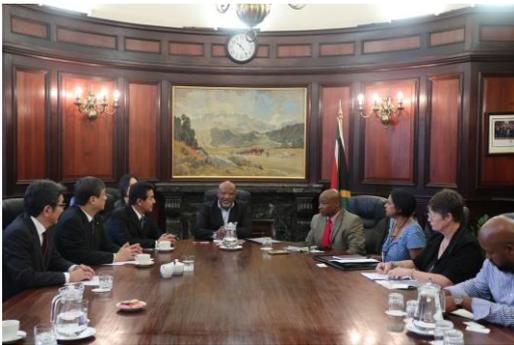
営企業と話をするように促している（同行した在南ア日本大使館員から、南ア電力公社と具体的なプロジェクトを前提に協議中であると発言あり）。第二の問題として、日本の円借款がデットファイナンスの観点から為替スワップに要する費用を含めて高くつくと理解している（廣木南ア大使から、現在議論を進めているが、技術的なので追って議論したい旨発言あり）。

<堀井議員及び杉尾議員の発言概要>

- ・南部アフリカにおいて中国のプレゼンスが高まる中、日本としても援助・投資を効果的に供与したいと考えているが、南ア側から見て、日本の援助の良いところ、悪いところを教えてほしい。

<ジョナス財務副大臣の発言概要>

- ・中国の投資と日本の投資はともに重要であって比較することは難しい。
- ・国家開発計画（NDP）の実現のため、インフラ整備や人材育成が最優先事項であり、日本からの一層の投資・援助を促進するよう、双方で努力したい。



ジョナス財務副大臣との意見交換の様子

3. エブラヒム大統領顧問との意見交換

派遣団は、1月13日昼、在南アフリカ日本大使公邸での昼食会においてエブラヒム（Ebrahim）大統領顧問との意見交換を行った。その概要は以下のとおり。

- ・エブラヒム顧問から、両国の観光交流強化、大震災からの復興などに言及があった。
- ・佐藤団長から、復興状況について説明があり、南アフリカ救助チームへの謝意が表明された。
- ・エブラヒム顧問から、南スーダン情勢に関し、自衛隊の活動を高く評価する旨の発言があった。
- ・佐藤団長から、自衛隊の活動は、引き続き人道支援・復興が中心である旨説明があった。
- ・エブラヒム顧問から、南アフリカにおける喫緊の課題として、失業対策、人材育成及び与党内での汚職蔓延への課題が挙げられ、本年の与党ANC総裁選では、女性候補の重要性について指摘があった。

4. モツアレディ保健大臣との意見交換

派遣団は、1月13日午後、在南アフリカ日本大使公邸において、モツアレディ（Motsoaledi）保健大臣との意見交換を行った。その概要は以下のとおりである。

<佐藤団長の発言概要>

- ・ T I C A D V I への出席に感謝する。ナイロビ宣言では保健システム強化及びユニバーサルヘルスカバレッジ（UHC）の推進をコミットメントしたことに感謝。
- ・ 南アにおいてモツアレディ大臣が国民健康保険導入に向けてリーダーシップを発揮していることに敬意を表する。
- ・ 本年3月にマトゥソ保健次官を招聘する予定である。
- ・ 日本はG7伊勢志摩サミットで8億ドルを世界基金に拠出することを表明した。

<モツアレディ大臣の発言概要>

- ・ 南アの医療保険制度の問題は、規模ではなく格差にある。
- ・ GDPの8.5%の規模の健康保険を有するが、人口の84%をカバーする公的保険にはGDPの4.4%が費やされ、人口の16%をカバーする民間保険にはGDPの4.1%が費やされており、後者では欧米と同等レベルの医療が提供される。
- ・ UHCの実現に当たり、アフリカ全体での保健システム強化が重要。また、南アでは公的保険の魅力を高め、国民のコンセンサスを得ることが重要。そのため、公的保険のカバーする病院などの医療インフラや機材の整備が不可欠。
- ・ 日本からはUHCに資するソフトローンと人材育成を期待する。

<ピレイ副次官の発言概要>

- ・ 大塚製薬の抗結核薬「デラマニド」の臨床プログラム（DCAP）に向け、廣木大使の努力に感謝する。
- ・ U N I T A I D に要請中の南部アフリカにおける結核薬供与プロジェクトへの資金拠出をお願いしたい。

<佐藤団長の発言概要>

- ・ 与党ANC内で政治プロセスが熟を帯びる中、時間をとっていただき意見交換ができたことを感謝する。

5. フロリック国民議会議長代行、ファブス同貿易産業委員長、マセコ同科学技術委員長との意見交換

派遣団は、1月13日夕方、ケープタウン市内のレストラン（Aubergine Restanrant）において夕食会を開催し、フロリック（Frolick）国民議会議長代行、ファブス（Fubbs）同貿易産業委員長及びマセコ（Maseko）同科学技術委員長を招待し、意見交換を行った。その概要は次のとおりである。

<佐藤団長の発言概要>

- ・ 二国間関係、議会交流の強化に努力したい。

<フロリック議長代行の発言概要>

- ・2007年にサッカーW杯開催を控えて訪日した際に、小池百合子環境大臣（現東京都知事）にお会いした。議員交流をぜひ強化したい。

<佐藤団長の発言概要>

- ・2019年のラグビーW杯を日本は開催する。自分は国会議員ラグビーチームのメンバーである。（堀井議員から、2020年東京オリンピックに言及あり。）

<フロリック議長代行の発言概要>

- ・南アは2023年ラグビーW杯に立候補する。自分は南ア議会ラグビー連盟のメンバーであり、訪日したく、招待を検討願う。
- ・（日本側からの照会に対して）現在、南ア・日本友好議員連盟は存在しないが、ここにいる3名を含める形で将来結成を検討したい。

<ファブス貿易委員長の発言概要>

- ・日本は南アにとって第三位の貿易相手国であり、南アからプラチナ等の鉱物資源を多く輸入している。南アで鉱物資源に付加価値を加える技術を日本から学びたい。プラチナを活用した燃料電池の開発など相互補完的な関係を構築することは可能だ。
- ・日本は理数科教育や勤勉さ、産業開発、イノベーション等ですぐれている。トヨタや日産のOBをJICAアドバイザーとして派遣していただいております。

<堀井議員の発言概要>

- ・例えば公文式は日本だけでなく世界にも広がっており、自分で考える力の育成が重要。南アでも日本式の勉強法が普及するよう期待したい。

<杉尾議員の発言概要>

- ・最近、ANCへの支持が低下していると聞いているが、どうか。

<ファブス貿易委員長の発言概要>

- ・南アの民主化という偉業はANCの成果。自分も解放闘争で5回収監され、アパルトヘイト政権の拷問により左目の視力を失ったが、民主化後、マンデラ政権は拷問した相手と同じ議会に登院し、国民和解を進めた。

6. ケープタウン近郊在住邦人との懇談会における意見交換

派遣団は、1月14日夕方、ケープタウン市内のレストラン（Panama Jacks）で開かれた懇談会において、同市近郊の日本人会会長、進出企業社長、医師、JICAボランティア担当企画調査員及び青年海外協力隊員の5名と意見交換を行った。その際の主なテーマは次のとおり。

- ・ケープタウンにおける日本人・日本企業の活動状況
- ・ケープタウン周辺におけるODA案件の状況、今後の可能性
- ・南アフリカにおける経済発展の状況、今後の見込み
- ・南アフリカの政治情勢